

## まえがき

本センターが発足してから1年8か月が過ぎた。この間に行った主な活動は、教育面では91年度夏期日本語教育と92年度夏期日本語教育の実施、研究面では、教材開発に関する共同研究、授業評価に関する調査のまとめ、研究会の開催などである。

今回の第2号の特集は、「学生による日本語コース評価」とした。ここで扱われた日本語授業は、ICU教養学部の全学共通科目である日本語教育プログラム(JLP)である。これの資料は2種類に分かれる。一つは1990年冬学期から1991年秋学期までの3学期間、各学期末に行った、学生による"Course Evaluation"を材料としたもの、もう一つは1988年11月に、日本語を取っている学生を対象に実施した調査に基づくものである。学生による授業評価は、これまで日本ではまだほとんど定着しておらず、実施するところは限られている。今回の分析を通して、日本語教育の質を高める方向を探る指針が得られれば幸いである。

本紀要ではさらに、教材関係の資料として、紀要第1号の特集で扱った日本語初級教科書の語彙リストと解説を掲げた。また海外の日本語教育に関する報告の第1回として、激動するロシアにおける日本語教育についての報告を載せた。

論文は、教育現場から得た成果に関するもの、教材開発に関するもの、構文に関する基礎研究など、計6編である。なお、特集の主旨と論文については英文要旨を添えた。この英文は、Mary Bedellさんの協力を得た。

本センターの今後の課題は、ICUの日本語教育全体における役割の確定と、それに従っての、教育・研究・社会への貢献等の諸活動をさらに積極的に進めていくことである。

1992年8月31日

日本語教育研究センター長

稲垣 滋子